

大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京大学、東京工業大学
整理番号	T-1
事 業 名	エネルギーシステムと都市のレジリエンス工学日土協働教育プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <b style="font-size: 2em;">A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	<p>本プログラムは、東京大学と東京工業大学がトルコの3大学と連携し、共通課題であるエネルギーシステムや都市の持続的発展に関して、両国の大学、研究機関、企業で中核的役割を担うリーダー人材を育成することを目的とし、「エネルギーシステム教育連携」、「減災・復興実践学教育連携」及び「都市地震工学教育連携」の3つの分野横断型教育プログラムにおいて、英語による授業や学生の派遣・受入を実施したものである。</p> <p>プログラム展開においては、開始2年目にトルコの政情不安があり、学生派遣が困難な状況であったにもかかわらず、大使館や関連する研究所、他大学などの協力を得ながら代替プログラムを実施したり、情勢回復が見られた後には留意しながら交流を行うなど、重層的なプログラムを交流学生数の目標値に近い値で実施した点は評価できる。また、短期間の受入学生に対してもキャンパス内のリソースを容易に利用できるように配慮したこと、派遣学生には派遣先でのインターンシップにおいて専門分野に応じて訪問先の決定を可能にしたこと、東京工業大学を中心に遠隔講義を早期に取り入れたことなど、両大学間で合同運営調整会議を開催して緊密な協議を重ねて実施した成果である。また、学生アンケートやレポート調査を通じて学生によるフィードバックを行う仕組みを整備するなど、プログラムの運営面で多くの創意工夫が認められる。</p> <p>一方、事業計画にあった中長期型の学生交流、受入プログラムにおける単位認定ガイドラインの整備は実現されず、5年間の事業期間中に単位付与を伴った派遣・受入がほとんど行われなかった。補助期間終了後においては、両国の将来に資する高い専門性を兼ね備えた人材の育成に向け、質保証に基づいて、相互に単位付与が可能な交流プログラムに発展させていくことが期待される。また、遠隔講義システムのさらなる活用、科学技術英語と日本語・トルコ語によるコーパスの開発、本プログラムに参加したOB・OGのフォローアップ、ネットワークを活かした大学間連携の拡大など、プログラムの成果を活かし、他大学に波及するようなプログラムを目指して一層の尽力が望まれる。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的なプログラム展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>